

事業所名

Seamless Support Labs ライズ・スプレッド  
( 放課後等デイサービス )

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

24 日

法人（事業所）理念		<p>①法人と施設の組織を有効に機能させ、利用者、職員、保護者の意見を尊重し、利用者と職員の生活向上の為、すぐれたアイディアは積極的に取り入れるなど、利用者の利益を優先する運営管理を行うよう努める</p> <p>②利用者と職員がお互いに人間として尊重しながら、利用者1人ひとりにあった生活をし、生きがいを持って暮らすことができるように努める</p> <p>③保護者、地域社会との交流を密にすることにより、皆から親しまれる法人を目指す</p>										
支援方針		<p>①支援を必要とするすべての障害児へのサービスの提供を行なう。</p> <p>②子どもの成長段階と共に生じる環境の変化に応じて、一貫した支援を行なうことを目的に、本人に関わるすべての機関と情報を共有し、支援ネットワークを構築する。</p> <p>③本人にとっての「楽しみ」を見つけられるようにし、同世代の友達と過ごす時間も楽しめるように支援する。</p> <p>④家庭や学校では味わうことのできない多くの経験を通して、一人ひとりの力を引き出し、将来の生活設計をする力を涵養する。</p> <p>⑤地域との関わりを大切にし、地域に根付いた支援を行なう。</p>										
営業時間		平日 ・ 長期休暇 (月曜～金曜)	12 ・ 11	時 ・ 時	00 ・ 00	分から	18 ・ 17	時 ・ 時	00 ・ 00	分まで	送迎実施の有無	あり ・ なし
支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	<p>①来所時にバイタルチェックと気分・体調について本人に確認し、その日の健康状態を記録する。また、職員は平常時のバイタル等を把握するようにし、きめ細やかな観察から心身の小さな異変に気づいて対応できるようにする。(健康状態の維持・改善)</p> <p>②睡眠・食事・排泄等の基本的な生活習慣についての様子を家庭や学校と共有するようにし、規則正しい生活ができるように支援する。必要に応じて嘱託医への相談・助言を仰ぎ、状態の改善を図る。また、利用児の状態像に合わせて排泄や食事、身支度など身の回りのことで一人で行えることができるように支援する。(生活習慣や生活リズムの形成/基本的生活スキルの獲得)</p> <p>③利用児の状態像や特性に合わせて活動や遊びに取り組みやすい環境設定や姿勢の検討を行う。併せて、利用児自身でやりたいことや環境設定、姿勢を選択する機会を設けることで自分のやりたいことの実現や自分自身でできることが増えることに繋がるよう支援する。(生活におけるマネジメントスキルの育成)</p>										
	運動・感覚	<p>①利用児の状態像に合わせて姿勢保持や関節の拘縮、変形の予防、筋力の維持・強化できるように支援する。また、継続的なプールプログラム実施における基礎体力の向上や水中で歩行練習を行うことで移動能力が向上することに繋げていく。(姿勢と運動・動作の基本的技能の向上/身体の移動能力の向上)</p> <p>②座位保持椅子やクッション等、様々な補助用具を活用することで自ら行える動作が増えることや活動に取り組みやすい姿勢を保持することができるように支援する。(姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用)</p> <p>③身体を動かすレクリエーションや等の活動を通して楽しみながら上肢や下肢を動かす機会を設け、自発的な動作が増えることに繋げていく。(姿勢と運動・動作の基本的技能の向上)</p> <p>④音楽療法の活動(楽器を演奏する、リズムに合わせて身体を動かす等)やおもちゃを使った遊び、スノーズレンやプールプログラムを通して、視覚や聴覚、触覚等、様々な感覚を活用できるように支援する。(保有する感覚の活用)</p> <p>⑤利用児の感覚の特性(聴覚過敏等)を把握し、活動に参加しやすい環境設定や声掛け等について検討し支援を行う。(感覚の特性への対応)</p>										
	認知・行動	<p>①活動を行うなかで、ルールや手順等が分かりやすいように利用児の状態像に合わせて、絵カードや写真、予定表、手順書等の視覚的に分かりやすいツールを使用して支援する。(認知の特性についての理解と対応/対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得)</p> <p>②レクリエーションや制作、靴下染め等の活動のなかで、数や色、物の大小、季節等に触れる機会を設けることで認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。(対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得)</p> <p>③感覚の偏りや、コミュニケーションの困難性から生じる気になる行動や問題行動が見られる際に行動についての記録、要因の検討を行い、本人が落ち着いて活動に参加できる環境設定や声掛け等について検討し支援する。(行動障害への予防及び対応)</p>										
	言語・コミュニケーション	<p>①利用児の状態像や特性に合わせて表情や身振り、絵カード等のツールを使用してやりたいことや自分の気持ち等を伝える機会を設け、コミュニケーションの手段を見つけていけるように支援する。(コミュニケーションの基礎的能力の向上/コミュニケーション手段の選択と活用)</p> <p>②レクリエーションや制作、靴下染め等の活動のなかで、選択肢(活動内容・色・使いたい物等)を提示し選ぶ機会を多く設けることで身振りや指差し、視線、サイン等で意思表示できる場面を大切に、相手に伝える→伝わるという経験を積めるように支援する。(コミュニケーション手段の選択と活用/状況に応じたコミュニケーション)</p>										

	人間関係・社会性	<p>①活動の中で、職員や友だちとペアになって活動を行う、役割を担い協力して行う等、職員を介して友だちと関わる機会を設けることで他者と関わる楽しさや場面に応じた関わりができるように支援する。(他者との関わり(人間関係)の形成/仲間づくりと集団への参加)</p> <p>②レクリエーションや制作等の活動を提供するなかで、本人の好きなこと、得意なこと、苦手なことを見つけていき、それらを踏まえて気持ちを調整することや状況に応じた行動ができるように支援する。(自己の理解と行動の調整)</p> <p>③カフェ(生活介護のお仕事)での職業体験を通して、地域の方と関わる機会を設けることで場の状況や相手に応じてコミュニケーションを展開できるよう支援する。(状況に応じたコミュニケーション)</p> <p>④本人の気持ちが崩れたり、不安定になった時に、職員に自分の気持ちを伝えることや職員と一緒に気持ちの調整の方法について考える時間を設けることで、活動に安心して参加できることや気持ちの折り合いをつけることができることに繋がるよう支援する。(情緒の安定)</p>		
	家族支援	<p>ご家族の困りごとや生活に対する意向、療育の希望について把握し、必要に応じて家庭への訪問または事業所にて個別及びグループにて本人・ご家族(きょうだい含む)の相談援助を行う。また、保護者の支援場面の観察や参加の機会を通じてこどもの特性や特性を踏まえたこどもへの関わり方等を学ぶ機会を提供する。</p>	移行支援	<p>・学校卒業後も地域のなかで本人らしく生活が送れるように、本人支援の内容と併せて、就労や成人の事業所へ通うことを見据えた活動の提供や支援を行う。</p> <p>・学校や相談支援専門員等、関係機関と子どもの状態や支援内容等についての情報共有を行う。</p>
	地域支援・地域連携	<p>・学校等の関係機関と子どもの状態や支援内容等について情報共有を行うことで本人の状態に合った支援を行う。</p> <p>・地域交流イベントの実施や、地域の公園等を利用した活動を通して地域との交流を図れるようにする。</p>	職員の質の向上	<p>・職員全員が重症心身障害児、利用児についての理解を深めることができるように定期的な事業所内研修を計画、実施する。</p> <p>・外部研修の参加による知識、技術の向上。</p>
	主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関を利用したグループ外出</li> <li>・きょうだい、ご家族参加型のおたのしみ会(花火大会/クリスマス会 等)</li> <li>・宿泊訓練</li> </ul>		